

日本臨床発達心理士会 中国・四国支部会報

Japanese Association of Clinical Developmental Psychologists

第4号(2005年5月1日発行)

発行 日本臨床発達心理士会中国・四国支部
編集 日本臨床発達心理士会中国・四国支部会報編集委員会
事務局 〒739-8524 広島県東広島市鏡山1-1-1 広島大学大学院教育学研究科幼児心理学研究室
TEL:0824-22-7111(内線5680) FAX:0824-24-5261

目次

- 1 ご挨拶
- 2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第2回総会のご報告
- 3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第3回総会のご案内(重要)
- 4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第4回研修会報告
- 5 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第5回研修会のご案内
- 6 中四会員紹介
- 7 編集後記～会報企画へのご投稿を～



ご挨拶

日本臨床発達心理士会 中国・四国支部
幹事 山崎 晃

新年度になり、中国四国支部にご所属の皆様には毎日お忙しい日々をお過ごしのことと存じます。早いもので、支部が発足して3年になり、会員数もさらに増加してきました。

昨今の情勢を省みますと、臨床発達心理に関わる問題も少なくありません。子育て支援、保育支援、特別支援教育など非常に多くの領域で、様々なニーズに対してどのように応えられるかが求められていると思います。このような時代においてこそ臨床発達心理士についての一般の人々の理解や認識が深まり、様々な分野での市民権を得ることになると考えております。

ひとりひとりの資質や技術を向上させるためには多くの課題と方策が考えられます。まず、一つの基本は発達に関する理論やものの考え方であり、それをどのように理解し、身につけ、生かすかを考えてゆくことが大切だと思います。もう一つの基本は、臨床の現場に関する経験と洞察、現場で生かすことができる技術の習得が大切だと考えています。この車の両輪のような2つの基本を融合させて、向上させてゆくことこそ、我々に課された課題であろうと思います。また、4月から施行された個人情報保護法をはじめとする、倫理的問題などについても研修を重ねる必要があります。

今後臨床発達心理士の活動を発展・充実させるために必要なこととして、研修会や事例報告会、情報交換会、勉強会などの活動をさらに充実させることがあると思います。支部の活動や運営について、積極的な提案をお願い致します。

2005年度は2回の研修会を予定しております。1回目は5月14日(土)に愛媛大学において開催いたします。2回目は、時期・場所ともに未定ですが、年内には開催します。

県や市町村の自治体の教育委員会や福祉課・保育課などへの一層の積極的なアプローチによって臨床発達心理士に対する理解を深めてゆく手だてをとることが大切だと考えておりますので、会員の皆様の一層のご協力をお願い致します。

2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第2回総会のご報告

2004年度中国・四国支部総会を以下の通り行いましたので、ご報告いたします。

1. 日 時 2004年7月3日(土)13:00～13:30
2. 場 所 岡山県生涯学習センター 情報・創作棟4F
3. 議 題

(1) 2003年度活動報告

1. 支部設立等 第1回総会にて規定、役員、年間活動計画、予算案を承認
2. 研修会等の開催 4月と2月に支部主催の研修会を広島にて開催
3. 会報の発行 7月に第1号会報を発行
4. ホームページの運営 研修会の予定内容等を掲載

(2) 2004年度会計報告

会計監査2名の監査報告とともに、下記の通り決算報告は承認されました。

収 入		支 出	
支部会費(心理士会)	2,000×29	58,000	研修会開催費
日本臨床発達心理士資格認定委員会		200,000	謝金等
			会場費
			通信費
			総会研修会案内費×2回
			事務費
			封筒他
			繰越金
計		258,000	計
			30,220
			3,200
			4,640
			315
			219,625
			258,000

(3) 2005年度活動案計画

1. 総会の開催
2. 研修会の開催
3. 会報の発行、ホームページの運営
4. 支部会員ネットワークの立ち上げ
5. 事例報告会の開催
6. その他必要な活動

(4) 2005年度予算案

下記の通りの予算案が提出され、承認されました。

収 入		支 出	
支部会費(心理士会)	2,000×43	86,000	研修会開催費
日本臨床発達心理士資格認定委員会			研修会×3回(30,000*3)
繰越金		219,625	会場費×3回(5,000*3)
			案内発送費(90*43*3)
			事務費
			事例報告会等費
			予備費
			繰越金
計		305,625	計
			116,610
			90,000
			15,000
			11,610
			1,000
			5,000
			10,000
			173,015
			305,625

以上、総会出席者18名、委任状12名、計30名(支部会員総数44名)で、過半数の承認により総会は成立致しました。

3 日本臨床発達心理士会中国・四国第3回支部総会のご案内

2005年度中国・四国支部総会を次のように行いますので、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

1. 日 時 2004年5月14日(土)13:00～14:00
2. 場 所 愛媛大学教育学部音楽リズム室(アクセス図(P.4)参照)
3. 議 題
 - (1) 2004年度活動報告
 - (2) 2004年度会計報告
 - (3) 2005年度活動案計画
 - (4) 2005年度予算案

4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第4回研修会報告

2004年7月3日(土)、岡山県生涯学習センターにおいて、中国・四国支部第4回研修会が開催されました。講師として田丸尚美先生(鳥取市保健センター心理相談員)にご登壇頂き、「母子保健現場における発達臨床～山陰一都市からの報告」と題するご講演を賜りました。

母子保健現場における心理相談員としての豊かなご経験から、相談職の役割についてお話し頂きました。講演では、豊富な統計資料や事例等をもとに、鳥取市における母子保健事業、子育て支援の状況などを丁寧にご紹介頂きました。従来からの障害の早期発見・対応に加えて、育児不安・児童虐待への対応や予防が期待される中、来談者のライフサイクルを視野に入れ、地域の社会的・人的資源を活かすという、先駆的な取り組みと今後の展望をお示し頂きました。これらは、臨床発達心理士のあらゆる領域に通底する内容だ



けに、会場は熱気にあふれ、充実した学びのひとつときは正に瞬く間に過ぎました。

参加者数は支部会員20名、その他2名、合計22名。他支部からのご参加もあり盛況でした。臨床発達心理士会各支部主催の研修会として資格更新ポイントは1ポイント(3時間)でした。なお研修会の後は、ささやかな懇親会が開かれ、交流の輪が広がりました。

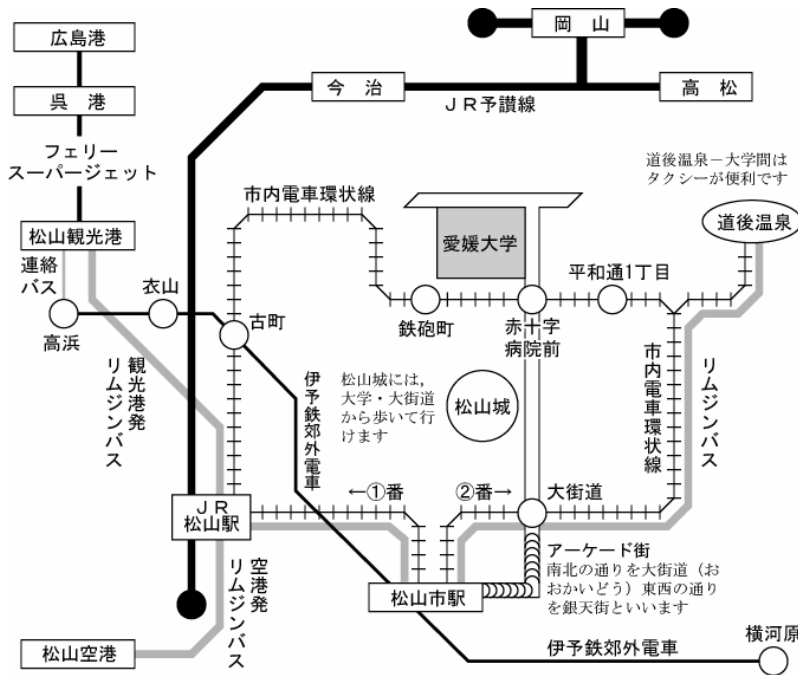
5 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第5回研修会のご案内

中国・四国支部の活動として総会に引き続き研修会を開催いたします。何かとお忙しい時期ですが、たくさんの会員の方々のご参加をお待ちしております。

- 日時：2005年5月14日(土) 14:00～17:00
場所：愛媛大学教育学部音楽リズム室(アクセス図(P.4)参照)
講師：紅谷博美(元愛媛大学教育学部教授：臨床心理士)
演題：「不登校再考」
資格更新ポイント：1ポイント(3時間)

紅谷先生は、長年愛媛県総合教育センター所員として勤務され、教育相談に携わってこられました。センター所長や高等学校校長を経て、学部附属教育実践総合センターの立ち上げに参加され、附属教育実践総合センター所長もつとめられました。退職された後も、不登校児童生徒の相談に関われています。当日は1時間ご講演を伺った後、さらに参加のみなさまから質問を受けて頂きながらお話し頂く予定です。

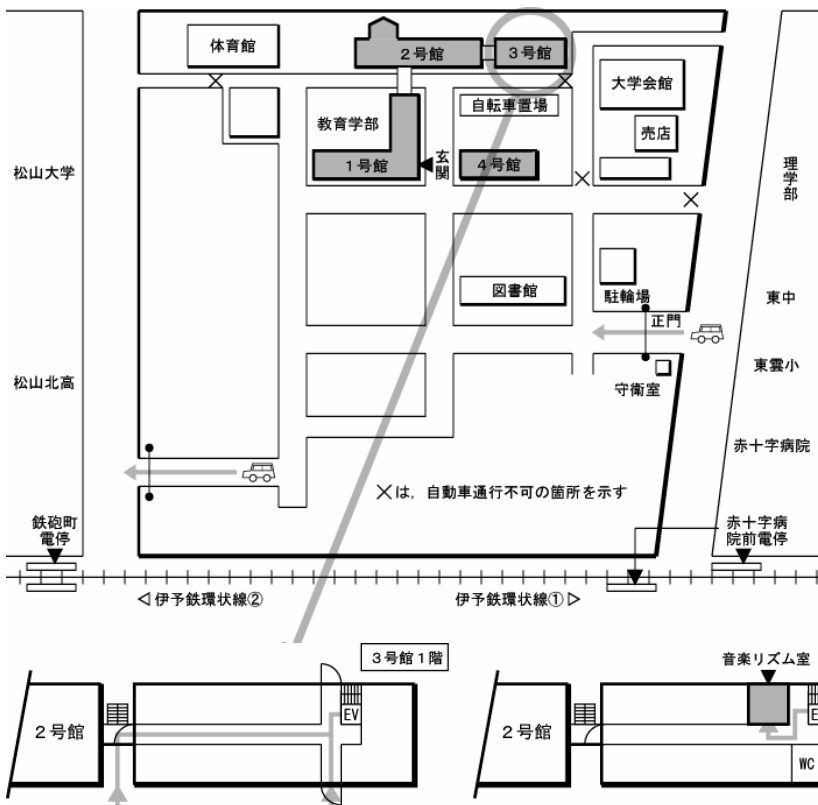
愛媛大学へのアクセス



飛行機や船で松山へ
松山空港と松山観光港から
市内まではリムジンバスが
出ていますので、これをご
利用になると便利です。JR
松山駅から下の要領で市内
電車に乗り換えてください。

JR 松山駅から大学へ
駅前の市内電車乗り場（古
町・鉄砲町方面）で1番の
電車に乗り「赤十字病院
前」で下車してください。

キャンパス内の会場(音楽リズム室)のご案内



徒歩でお越しの場合
市内電車を「赤十字病院前」
で降り、まっすぐ北へ歩いて、
正門より大学にお入りくださ
い。正門を入ったらすぐに右
に折れ、しばらく進むと3号
館の白い建物が見えてきます。
音楽リズム室はこの建物の6
階にあります。

車でお越しの場合
正門から入った後、守衛室で
来訪の目的、来訪場所を告
入構の手続きを行ってくださ
い。お帰りの際には、松山大
学側の「自動車用ゲ
ート」を通って出られま
す。

6 中四会員紹介 第1回 愛媛支部 平林 茂代先生

小児科心身医療に携わって

臨床発達心理士 平林 茂代

松山赤十字病院小児科で心理臨床を担当しています。昨年、臨床発達心理士の仲間に加えていただきました。小児科での仕事は、外来受診で来院され、医師の診察を受けられた患者さんの中で心身医療が必要と判断された方を担当することになります。心身医療を求めてこられる患者数は年間500人を超え、4人のカウンセラーで担当しています。症状別では心身症、不登校、引きこもり、摂食障害、発達障害そのほか育児不安や虐待など多岐にわたっています。10年ほど前から患者数の増加と症状の複雑化、重症のケースが増えているのが気になります。心理療法としては、医師との連携のもとに継続的にカウンセリングを行い、本人面接、親子面接が中心になりますが、遊戯療法や箱庭療法、家族面接など行います。私自身、日常とあまりかけ離れない対応も心がけています。入院治療が必要な場合も多く、医師や看護師、その他の職員とのチーム医療も重要となります。

いのちに直面するような厳しい側面もあるのですが、子供たち一人ひとりが、また家族がそれぞれに物語を生き、そこに展開されるドラマは豊かに力強く生きることの証が感じられることが多く、心理士としてその方の人生のドラマのほんの1ページの片隅ながら関わりがもてたことに喜びを感じ、この仕事を続けてよかったと思えることがしばしばです。

当病院の小児科と産婦人科が連携をして昨年7月成育医療を発足させ、胎児期から思春期までを一貫して子供とその家族を医療、保健、心理の面から予防を含めた支援を行うことになっており、ボランティアの方や医療、教育、福祉などの機関との連携が必要になり、臨床発達心理士としての役割もこれまで以上に病院内での連携とともにコミュニティとの関係の中での役割意識を持ち、予防的働きかけをしていくことが重要と思っています。



7 編集後記～会報新企画へのご投稿を～

新緑が目に見鮮やかな季節となりました。中国・四国支部会報は今回で第4号となります。中国・四国支部では今年度18名の新規会員の方をお迎えしました。また、1名の方の支部異動があり、会員数は現在61名となりました。それぞれの方がさまざまな機関、職種でご活躍です。支部会報では、今後も支部の会務報告や研修会報告・ご案内の他、会員相互の情報交換等にも役立てて、バラエティのあるフレッシュな紙面作りをしたいと願っています。そこで、会員の皆様から次のようなご投稿を広く募ります。気軽に奮ってお寄せ下さい。
(宛先：yashima@sanyo.ac.jp)

1 中四会員紹介

この企画ではそれぞれの実践現場の様子を紹介して頂き、会員相互の交流や理解を図れたらと思います。第1回は編集委員より平林先生にお願いさせていただきましたが、会員のみなさまからの自薦他薦大歓迎です。是非みなさまの職場の様子、臨床発達心理士資格を取得して想うこと等、お寄せ下さい。また、編集委員から依頼させて頂きました折には、趣旨にご賛同頂きご協力願えましたら幸いです。

2 耳より中四情報

会員の方にお知らせするとよさそうな臨床発達心理関連の研修会、図書情報等を200字程度でお知らせ下さい。発行時期の都合で間に合わない場合もあるかと思いますが、随時ご紹介させていただきます。
(編集委員会)